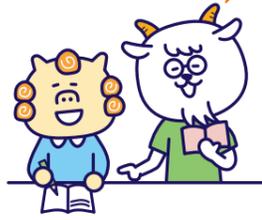


学生たちの反応は？

年々参加希望者は増えていて、中には1人で数か所を掛け持つ学生もいるそう。学校の授業とは違う実践的な学びの場として、関心が高まっているようだ。



主な活動内容をご紹介します

- **学習支援**  
毎日の宿題や受験勉強、試験対策と一緒に取り組む。
- **生活支援**  
一緒に遊びながら日常生活におけるきまりや、良い習慣、買い物の仕方、お金の使い方などを体験させる。
- **芸術活動**  
絵画、楽器などを扱う。
- **共同給食**  
子どもたちの食事を準備し、食育も行う。

CASE 1  
子どもの居場所  
学生ボランティアセンター  
[ボランティア] <https://www.consortium-okinawa.or.jp/kg-vc/>  
ホームページ

子どもの居場所で活躍する  
学生サポートボランティア

県内11か所の高等教育機関に通う学生ボランティアを、各地の子どもの居場所に派遣している。2023年度は10月末時点で、200名超の学生が100か所以上の居場所で活動。事前研修会で基礎知識を身に付けた学生が参加し、子どもたちにとって年齢が近い「お兄さん、お姉さん」的存在として、寄り添い型のサポートを提供している。

頼りになる！  
寄り添い、支える  
子どもたちの身近な存在



進め！  
うちなー調査隊  
県内の気になるコト・モノを知れば  
沖縄がもっと面白くなる！

地域や社会全体での取組が  
子どもたちの未来を守る鍵になる

「子どもの貧困」は、沖縄にとって大きな社会課題の一つ。子どもたちは、これからの社会を担っていく沖縄の宝です。みんなで見守り、育てていく活動が、県内各地で始まっています。

各地に広がる子どもたちへの支援の輪

CASE 3  
[居場所] にじの森文庫  
<https://nijinomori-okinawa.com/>  
ホームページ

親子で利用可能！  
地域に密着した憩いの場

1500冊以上の本を揃え、子ども食堂も併設

誰でものんびり自由に過ごすことができる子どもの居場所として、2016年に那覇市松川に開所。絵本や漫画、児童書など1500冊以上の本があり、無料で食事も提供している。1日25~30人の小中高生が訪れ、一緒に食事をし、クラブ活動を通して協力し合うことで、子どもたちの成長につながっている。母親が利用できるのも特徴で、情報交換したり、悩みを相談し合ったりして親交を深め、困っている親子を孤立させない仕組みづくりを行っている。

CASE 2  
[寄付] タコライスラブス  
<https://www.tacorice-lovers.okinawa/>  
公式LINE

約3年間で5万食！  
協力店も約6倍に

「優しさ」が形になった、笑顔を生み出すチケット

子どもたちが無料で食事ができる「みらいチケット」の普及活動に取り組む。「みらいチケット」は、食事代金にプラス料金を支払うと購入可能。店内に掲示されたボードに貼り付けられ、来店した子どもたちがそのチケットを使ってご飯を食べられる。協力店は、立ち上げ当初の32店舗から約3年間で184店舗に増え、これまでに約5万食を提供。「みらいチケットはたくさんの人の優しさで成り立っています」と代表の山川さん。多くの善意が、子どもたちの笑顔につながっている。

全国平均よりも高い  
沖縄の子どもの貧困率

できることから始める  
さまざまな支援活動

さまざまな家庭の事情から、健康やかに成長するために必要な生活環境や教育の機会が得られない子どもたちがいます。いわゆる「子どもの貧困」問題です。  
県は2016年1月、全国に先駆けて県内の子どもの貧困率に関する調査を行いました。推計した結果、子どもの貧困率は全国平均の約1.8倍となる29.9%と算出されたのです。  
1日の中で、学校給食だけしか栄養バランスの良い食事が取れなかったり、経済的な理由で病院の受診ができなかったり、進学を諦めたりすることも。社会において「当たり前」とされることのできない子どもたちが、数多くいるのが現状です。

県は2022年3月、「沖縄県子どもの貧困対策計画(第2期)」を発表しました。基本理念として「社会の一番の宝である子どもたちが、現在から将来にわたって、その生まれ育った環境によって左右されることなく、夢や希望を持って成長していける『誰一人取り残さない優しい社会』の実現を目指す」と掲げ、それぞれの家庭だけの問題とせず、地域や社会全体で取り組んでいくことが必要とされています。  
例えば、「子どもの居場所」もその一つ。家でも学校でもなく、子ども自身が安心して、自分らしく過ごすことができる居場所のことで、県や市町村が実施した調査によると、県内には離島を含めて316か所(2023年10月1日現

在)があります。自治会やNPO法人などが運営し、食事の無料提供や学習指導などサポート内容はさまざま。県内の大学生らが学生ボランティアとして派遣され、スタッフを務めることもあります。  
県は2016年3月、「沖縄県子どもの貧困対策推進基金」を設置。県民一体となって貧困対策を推進するため、同年6月に「沖縄子どもの未来県民会議」を設立しました。個人でできる支援も多くあり、子どもたちが無料で食事ができる「みらいチケット」もその一つ。フードドライブや募金活動も盛んで、子どもの居場所や子ども食堂で使う食材や、利用する書籍や用具は寄付によって賄われているところもあります。県や地域、民間団体、そして個人が「自分ごと」として考え、社会全体で取り組むことが解決への第一歩となります。

うちなー調査隊  
まとめ

「子どもの貧困」を解決することで  
沖縄の豊かな未来につながる!



- ☑ それぞれの家庭のみの自己責任とするのではなく、地域や社会全体の問題として取り組むことが必要。
- ☑ ボランティアや寄付活動など、一人一人ができることを探すことが大切。



募集

公立学校臨任教職員・非常勤講師

令和6年度の登録はこちらから▶



募集

公立学校臨任教職員・非常勤講師

令和6年度の登録はこちらから▶

